

ごみを減らそう!!

ごごみちゃん



— 京都市ごみ減量推進会議 —

No.39 2009.3

「ゴミゲン・ネット」デザインリニューアル



京都市ごみ減量推進会議のホームページ「ゴミゲン・ネット」のデザインをリニューアルしました!

京都芸術デザイン専門学校の学生に受託研究制作として新しいデザインの作成を依頼し、京都市ごみ減量推進会議からのお知らせや、活動紹介のページをはじめ、全体的に、見やすく、すっきりとしたデザインに仕上げていただきました。また、トップページの「ごごみちゃん」が縄跳びを飛ぶ動画や、季節に応じて替わる背景など、ところどころに遊び心が感じられる楽しいホームページとなっております。

これからも「ゴミゲン・ネット」から、イベント情報、活動報告を発信して参ります。ぜひご覧ください!



◆「ゴミゲンネット」URLはこちら

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html>

出町でエコに出会う日

2月14日

昨年に引き続き、本年も出町商店街にて、イベント「出町でエコに出会う日」を開催しました。大根炊きや、みたらしだんごをリユース食器にて提供したり、オリジナルリユースプレートを貸し出し、量り売りのお惣菜等を盛り付けて召しあがっていただくというイベントです。中には、ご自宅からタッパーや鍋を持参し「今晚のおかずにするし」と、大根炊きをご家族分、購入される方も。

昨年、公募によりエコ商店街のモデルとして選ばれた出町商店街振興組合。この1年間、七夕祭りでのごみの分別収集や、容器や買い物袋を持参してお買い物に来られた方にスタンプを押し、スタンプをためていただくと抽選ができるエコスタンプ事業、組合での話し合い等をおして、環境意識の向上を図ってきました。今後も、対面販売や量り売りなど、商店街の特性を活かし、環境活動を進めていきます。



オリジナルリユースプレートに盛り付けられた昼食



「おいしいね。」と、大根炊きを楽しむご家族



揃いの法被を着てイベントを盛り上げる出町商店街の方々

環境教育の

学びあう社会が人々のよろこびを育みます。学びあう仕組み、助け合う仕組みは世代を結び、生活に安心をもたらし、私たちの成長を支えます。そこに信頼が生まれます。今回は、コミュニティの主演、子どもたちの環境教育の現場を通して、そこにある学びの芽ばえと新しい課題を追ってみました。

30分一本勝負！『エコ学習』現場からのレポート

『あなたは、今日、どんなごみを捨てましたか？』
『それは、なぜ、ごみになったのでしょうか？』
『ごみを減らすために、あなたにできることは何ですか？』
…あなたは、この問いにどう答えますか？

これは、京都市立小学校5年生の学校カリキュラムの一環として、京エコロジーセンターが行っている、環境学習プログラム「エコ学習」（年間177校／11,236人／平成19年度）で使っているワークシートの問題です。子どもたちは30分間のプログラムで、生活の中の「ごみ」「水」「エネルギー」と地球温暖化との関わりを知り、環境ボランティア「エコメイト」からの問いかけと、五感を使った体験を通して、よりよい地球環境の中で暮らしていくために「私にできること」を探ります。

エコ学習の現場には、知識の伝達だけでなく、子どもたちと「エコメイト」の対話があります。

『地球温暖化は、どんな仕組みでおこっているの？』
(約6割の子どもたちは)
…オゾン層に穴があいて、地球に熱い空気が入ってくるから。
『地球温暖化を防ぐために、あなたにできることは何ですか？』
(即答で) エコ。省エネ。節水。リサイクル。エコバッグ。

「エコメイト」の問いかけに対する反応から、子どもの様々な現状が見えてきます。子どもたちは、情報・知識はたくさん知っていて、大人の求める正解を答えようとします。正解を答える事で満足し、「私にとってどういうことなのか」考えておらず、実感も湧いていません。

「ごみを減らさなければいけない」ことは知っていても、自分が具体的に「どこで・どんなときに・なにを・どうする」ことなのか、ひとつひとつイメージを描いてないため、知っているだけで終わってしまいます。世界で困った事が起こっていても、自分ごとになっていないため、行動目標を立てたとしても、行動には結びついていません。



そのため、エコ学習では、『あなたは…?』と問う事によって、子ども自身の無意識の部分に意識を向け、気づきを促進するための問いかけ・対話を重視しています。

『あなたは、どんなごみを捨てましたか？』
…捨ててない。…ティッシュ。…生ごみ。

『それは、なぜごみになったのでしょうか？』
…ごみやから。…いらんから。…使い終わったから。
最初は慣れない質問に戸惑い、簡単な答えで済ませようとします。しかし、具体的に訊いていくと、子どもたちなりに生活をふりかえり、はっとした表情で様々な自分自身のことを返してきます。

子どもたちの中には、大人の問いかけに対して、クラスの他の人からどう見られるか恐くて、思っていることを表現できない子、また、静かに聞いている様で絶妙に「聞き流している」子もいます。出来事に対して最初から諦めている、否定的な反応をする場合もあります。

『風車をまわして発電しよう！』
(即答で) おもんな。しょーもな。なんでやらなあかんねん。
…口ではそんなことを言っているけど、いざやってみると、必死に楽しめます。何かをする前から、新しいものが生まれるかもしれないという「自分自身の可能性」を狭めているのです。

このような反応の奥にあるのは、子どもの自分自身に対する「見方」です。自分自身の存在が大事に思えない、されていない子は、人・モノ・地球など、とても大事にできません。そうすると、「学びの場」そのものが成立しなくなる場合もあります。『持続可能な地域社会に向けて、理解から実践へ！』などというのは、遠い遠い話です。

エコ学習で「エコメイト」が最初にしてしている事は、子どもに寄り沿い、存在を受け止められている安心感をつくることです。本題に入るまでの、あいさつ、声かけ、スキンシップ、何よりあたたかい眼差しが、少しずつ子どもとの距離を縮めていきます。

子どもたちは、大人が本気で関わっているのか・そうでないのか、体験から湧きでる思い・願いなのか、言葉・知識の羅列なのか、瞬時に見抜きます。時には試してきます。

わずか30分の間に、「エコメイト」は本気で向き合います。そしてその大人に触れ、子どもたちも真剣に取り組みます。

ある親は、「エコ学習」を終えた自分の子どもを、『うるさくなった!』と評したそうです。家中の電気を消して回り、家族が水や電気を無駄に使っていると、『もったいない!』と注意するようになったそうです。短い時間の中でも、子どもたちの心が響けば、行動に移っていく、「エコ学習」はまさに、子どもと大人の30分一本勝負の「学びの場」なのです。

京エコロジーセンター 事業課 谷内口 友寛



京都市環境保全活動センター
京エコロジーセンター

- 開館時間 9:00～21:00 (1、2F 展示場は 17:00 まで)
- 休館日 毎週木曜日 (木曜日が祝日の場合、翌日休館)
- ホームページ <http://www.miyako-eco.jp/>

現場に行く

＜京都市立室町小学校 環境委員会を訪ねて＞

京都市立室町小学校は、各学年2クラスずつの小さな小学校です。高学年になると委員会活動に参加し、朝会や地域での発表を行うなど、活動成果を積極的に発信しています。

今回は、環境委員会の取組を取材させて頂きました。この委員会では、小学5・6年生9名が「資源」「ごみ問題」「地球温暖化防止対策」「環境学習」などについて、学習と実践を通して学んでいます。3年前からは「ひまわり・菜の花の種から油をとろう！」という取組が始まり、室町地域ごみ減量推進会議会長でもある織田英夫さんが指導役となって、植え込みから、毎日の水やり、種取り、油絞りまでを1年間かけて学習しています。

小型搾油機を使ってひまわりの種から油をとる実験では、どれくらい油がとれるのか、メンバーは半信半疑。搾油機を使用する前に、自分たちの手で硬いカラをはぎ、すり鉢で一生懸命砕いてコーヒー用のフィルターに入れて絞ったけれど、油はフィルターに染み出すほどの量だったそうです。

では、実際に搾油機での作業に挑戦。ひまわりの種を機械につめて、レバーでゆっくりと空気圧を掛けていきます。はじめは簡単に動くレバーも、だんだんと圧力が掛かり、数人が協力してやっと動くほどに硬くなります。「ああ、手が痛い！」「バリバリとカラが



つぶれる音がする！」と、機械の中の種にも変化が伺えます。しばらくすると、機械の上部からじんわりと液体が出てきました。「油のおいがする！」「触っていい？」みんなで液体を触ったり、臭いをかいだり、本当に油なのかどうかを確かめます。「ベタベタするよ。」「やっぱり油の臭いだ！」レバーに込める力がますます強くなります。

「自分たちの手で絞った時よりも油の量は増えたけれど、搾油機で力いっぱい絞ってもまだ油の量は少ない。」「最初は、本当に油かな？と思ったけれど、手触りや臭いでやっぱり油だと分かった。」「レバーをだんだん強く押さないといけなかったので、びっくりした。」など、一人ひとり、感じたこと、考えたことが次々に飛び出しました。

「油は、店に行けば容器に入って売られているのが当たり前。しかし、もの大切さを知っていること、ものを作るには多くの人の手と、時間が掛かることをみんなに伝えたい。」実験の最後に織田さんが熱く語ります。種から一生懸命育てたひまわりを通して、9名のメンバーが感じ取ったことは、中学生になっても、大人になっても、何かの形で生きているはず。小学生の頃から“実際に触れて、感じる”、本当の意味での体験学習がいかに大切かを、身を持って伝え続けている織田さん。その光輝く種は、やがて次の世代を担う子どもたちの心の中で育ち、花開くことを確信しています。

校内の通路には、きれいに植えられた菜の花のプランターが、太陽の光を受けて並んでいます。昨年の12月に、環境委員会の9名が小さな苗を植え、大切に育ててきた菜の花です。卒業式には黄色い可憐な花を咲かせ、入学式では、また元気な仲間を迎えてくれることでしょう。



取材日：平成21年3月2日

取材：松村 香代子

京都市立室町小学校HP：

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/muromachi-s/>

「生ごみを知らない子どもたち」

1960年代～70年代、青春を謳歌したのは「戦争を知らない子どもたち」。

21世紀はじめに出会ったのは「生ごみを知らない子どもたち」だったというお話。

京エコロジーセンターでの子どもたちの環境学習に参加してみました。

環境リーダーやエコマイトさんの問いに答える子どもたち。地球温暖化を防ぐには？「二酸化炭素を減らす」その為に大切なことは？「節電、節水、リサイクル」信号のように答えがかえってきます。

さて、問題が生ごみに移り「生ごみって知ってる？」の問いかけに子どもたち全員がハッ！とする。互いに顔を見合わせます。

「生ごみと私」その回路が繋がらないのです。誘い水をかけあげると「ああ、そういえばみかんの皮とか」といった声が返ってきます。

「生ごみと子どもたち」。実はこの問題には私たち大人が生ごみという最終段階にばかり目を奪われてはいけないうことを気づかせてくれます。

自然体としての私たちのカラダは、急激に変化した食の文明100年をどのように受け入れてきたのでしょうか。そして私たちの食卓はどのように変化してきたのでしょうか。飽食、個食、中食、そして食のアレルギーから子どもたちの味覚の衰退までをひきおこした食を見つめなおす、食のコミュニティをとらえなおす。食糧政策と加工・流通を考えなおす。新しい視点が今、必要なのでしょう。

さて、子どもたちへ。生ごみとは、生きものの残骸なのです。本来食べられるものを加工、調理することをあきらめて捨てた食材のことです。そして、せっかく入手した食べられるものの1/3を私たちは捨てているのです。1950年から比べて、食べられるごみの量は

10倍以上になりました。

好きなものだけを食べる。いつでも食べたい時に食べる、そんな「乱れ食い」が健康にいいはずがありません。

君たちは健康に暮らす権利を持っています。実は、みんなは新鮮な生命を食べて元気を保っています。それが健康ということです。

ただ今、大多数の人は「食べものという生命」が生まれる現場を知る機会にほとんど出会っていません！

例えば、農業を営んでいる人達と仲良くなり、生命が生まれるところに立ち会ってみましょう。

土の匂いをかぎ、そこに落ちた種子が次世代を育てるチャンスを待っている奇跡の現場に遭遇するのです。食べものが生きものであることを学びましょう。

そうすると、おいそれと食いちらかしたり、残したりするというのがもったいなくなります。

食べ残したものを、また使う方法、食いのばしの為に保存しておく技術もみんなで考えましょう。

そこできつと働く人のお仕事の大切さがわかります。

そして忘れないで。この地球上の60億人みんなが食べられる方法をつくりださなければならないことも。

(今、世界の1/3の人たちが食べられないでいます。)

みんなで一緒に食卓を囲む楽しさ。

バランスのいい食べ方も学びましょう。

美味しいものを食べる喜び、健康でいることの幸せ。

そこを考えると生ごみが実は深くつながっていることを感じてもらえるといいなと思います。

取材日：平成21年2月25日 取材：大橋 正明

ごみ減 地域活動レポート

【流さないで、捨てないで！を合言葉に】

梅津地域ごみ減量推進会議

午前10時、フレンドマート梅津店の入口には、使用済み天ぷら油回収用のポリタンクとのぼりが立てられ、お揃いのエプロンを着た梅津地域ごみ減量推進会議（以下、梅津ごみ減）の皆さんのにこやかな姿が見える。買い物客で賑わう店頭での回収は、多い時にはポリタンク3つ分にもものぼり、地域住民の天ぷら油回収への意識の高さが伺える。

梅津ごみ減の立上げは平成18年。「流さないで、捨てないで、リサイクルしましょう」を合言葉に、活動を始めた。平成19年に、回収拠点の1つであった京都生協葛野店の移転に伴い、現在のフレンドマートでの店頭回収がスタート。小学生のお子さんと一緒に、天ぷら油を持参した女性は、「店頭で天ぷら油を回収しているのを知って、私も持参しました」と話す。お店や自治連合会の協力を得て、毎月第4土曜日に続けて来た活動が、若い世代にも広がっていることに喜びを感じている。

女性会としての活動も活発で、平成12年から廃油でせっけん作りを始めたことが、梅津ごみ減を立上げる基盤となった。また、定期的に地域の高齢者に手作りの食事を楽しんでもらうなど、地域住民との交流が盛んである。

その他にも、梅津まちづくり委員会と共同で地域清掃を行う際、天ぷら油の回収について呼び掛けたり、まちづくり委員会が取り組んでいる生ごみ堆肥を利用した花の寄せ植えに参加するなど、安心、安全、そしてより良い環境作りのため、他団体との連携も積極的に行っている。

桂川をはじめ、自然が豊かな梅津地域。若い世代を巻き込み、未来を見据えたまちづくりとの連携を図りながら、ごみ減量の取組が更に広がることを期待している。

取材日：平成21年1月24日 取材：松村 香代子

◆会長：中川 恵美子 ◆発足：平成18年7月 ◆世帯数：約54,000世帯
◆使用済み天ぷら油の回収：月1回第4土曜日



左から
松本さん
(庶務)
中川会長
太田副会長
鈴木副会長
川本さん



NEWS

2009年

*1月の出来事

- 1月20日(火) 理事会
- 1月25日(日) 市役所前フリーマ



リユースびんキャンペーン

*2月の出来事

- 2月1日～28日 リユースびんキャンペーン
(ジャスコ 五条店、大国屋 白川店)
- 2月8日(日) 市役所前フリーマ
- 2月14日(土)
「出町でエコに出会う日」開催
- 2月15日(日) 「Do you Kyoto?」
キャンペーン2009京都議定書発効記念
活動交流イベント(みやこめっせ)
啓発ブース出展
- 2月16日(月)
買い物袋持参キャンペーン
(コープ 二条駅店)
- 2月18日(水) マイバッグに関する
アンケート調査(京都高島屋)
- 2月26日(木) 常任理事会



出町でエコに出会う日



買い物袋持参キャンペーン

*3月の出来事

- 3月1日(日) 市役所前フリーマ
- 3月7日(土) リペア・リメイク講座
(染め替え体験、家具修理見学、座布団作り見学)
- 3月24日(火) 理事会

*4月の予定

- 4月4日(土)・5日(日) 鴨川さくらまつり
展示ブースにて、菜の花プロジェクトで育てた菜の花をお披露目
- 4月26日(日) 市役所前フリーマ *雨天時は4月29日(祝)
- 平成21年度市民公募型パートナーシップ事業
募集開始(4月下旬～)

*5月の予定

- 5月5日(祝) 市役所前フリーマ *雨天時は5月30日(土)
- 理事会

京都市ごみ減量推進会議会報誌 ごみを減らそう! No.39

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
京エコロジーセンター活動支援室内
TEL: 075-647-3444/FAX: 075-641-2971
E-mail: gomigen@mbbox.kyoto.inet.or.jp
URL: <http://web.kyoto.inet.or.jp/org/gomigen/index.html>

🔍 ゴミゲン・ネット

🔍 検索 🔍 で検索出来ます

【入会のご案内】

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたいまちと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民団体、事業者、行政により1996年11月に設立した団体です。パートナーシップで多彩な活動を展開中。京都市ごみ減量推進会議では、ともに活動をする会員を募っています。

詳細は、事務局へ問い合わせください。TEL:075-647-3444

企画編集：京都市ごみ減量推進会議 普及啓発実行委員会
(会報誌・ホームページ小委員会)